

まぶ で KO SO!

過去の記事は

こちら



小児看護「心の声」聞く努力

家族の笑顔を支える大切さ

「子どもはかわいいと思う。でも、小児看護は難しい」。看護学生から、そんな声を聞くことは少なくありません。また、子どもだけではなく、家族とどう接すればよいか悩む看護師も多いのです。

私も今は小児看護の専門家として大学教員を務めています。もともと年下の子どもと接した経験が少なく、子どもは未知の存在でした。偶然にも小児病棟に配属され、小児看護の現場を経験する中で、子どもと家族の笑顔を支える看護の大切さ、奥深さを痛感しました。

看護師時代に10代の女の子を担当しました。彼女は、看護師になるという夢を持っていまし

た。私は彼女の夢を応援したいと、インスリンの注射の方法や血糖値の自己管理の仕方を一生懸命に教えていました。退院から数年後、彼女が毎日の病気の管理に疲れ、家で暴れたことを知りました。その時に自己注射の方法を教えることも大事ですが、そればかりに集中するのではなく、心と心が通じ合う対話が必要だったと気付かされました。

看護師が小児看護に苦手意識をもつ理由はいくつかあります。小児看護では、薬を飲んでくれない、注射を嫌がる、思春期の子と正面から向き合わなければならないといった、大人と接する以上の苦勞があります。

現代では、少子化の影響で小さな子どもと接した経験が少ない学生も増えています。一方で、子どもとの会話を学ぼうとしても、多くの看護学校では人形を相手に演習をするしかなく、緊張感を持って実習することはできない状況です。

私はこの課題に向き合うため、2024年にインターネット上で小児患者や家族とのコミュニケーションを練習できるIT教材「しゃべれるん」の開発を始めました。病気を持った子どもやその家族の人工知能(AI)アバターを使用し、いつでも、どこでも、リアルに近い対話演習ができる教材です。この教材でコミュニケーションの課題を



前田由紀さん

解決して小児看護への障壁を下げ、病気の子どものその家族の笑顔を支える看護師を増やしたいと考えています。

現在、「しゃべれるん」は実装研究を進めています。コミュニケーション能力や、小児看護技術の向上につながるかを科学的に評価しているところです。25年12月には、さらなるバージョンアップをするため、岐阜大学公認のクラウドファンディン



画面上のアバターと対話ができる教材「しゃべれるん」＝岐阜市の岐阜大で

グ(CF)に挑戦しました。結果、多くの皆さまから支援をいただき、目標を達成することができました。完成品は28年の販売を目指しています。

技術的なケアだけでなく、AI教材で自信をつけ、「言葉にならない心の声」を聴こうとする看護師が増えてほしいと思っています。この教材が、粘り強く関わることのできる看護師を育て、病気という高い壁にぶつ

かった子どもやその家族が前向き歩みを進められるようになればと願っています。

まえだ・ゆき 岐阜大医学部看護学科准教授。



専門は地域生涯発達看護学、小児看護学。武庫川女子大学院看護学研究科修了(看護学博士)。